

縦横

プロメテウスは、万物の創造主としてギリシャ神話の中で最高の尊敬を受けている。それにひきかえ、弟のエピメテウスはあまり芳しくない。彼の妻パンドラは一つの箱を持って嫁入りした。祝言のさなかに彼女は、その箱をひっくり返してしまった。その時飛び散った中身は悪で、爾来世界中に禍が広まったといわれている。

あらゆる悪の種類はもう出尽くしたと思っていたが、またまた新型の悪が出現した。民間機をハイジャックして乗客を道連れに数千人が働いているビルに体当たりをするというのである。ニューヨーク国際貿易センタービルへのテロは、憎んでも余りある許しがたい巨悪である。これは戦争を除けば、歴史に残る最高の凶悪犯罪の一つとして永久に記録されるであろう。凶悪な犯罪である以上、人類は結束して犯人を探し出し、司直の手にゆだねて、徹底的に断罪しなくてはならない。時効を無期限に延長しテロ集団を根こそぎ捕縛し、悪の種を根絶する必要がある。

しかし、その役割は刑事警察の仕事であって、軍隊の職務ではない、少なくとも「あの日」まではそうであった。しかるに、米国のブッシュ大統領は、「十字軍」による「新しい戦争」だと宣言し、アフガンに軍隊を投入してしまった。刑事事件が戦争に発展した歴史として第一次世界大戦があるが、あのときの愚を人類は再び犯してしまったのである。

ところで、「十字軍」はコインの両面をなす言葉である。コインの一面には西欧世界にとっての正義が、その反面にはアラブ世界にとっての悪が刻印されている。大統領発言は二つあるうちのコインの一面だったのである。指導者の歴史教養の大切さを教えられた珍しくもない例の一つである。

かくて米国は、ベトナムでの失敗の歴史に学ぶこともなく、もはや破壊するものの何一つ残っていない土塊だけのアフガンに先端兵器を打込んでいる。あろうことか、日本もこれを奇貨として自衛隊派遣をたくらんでいる。米国に炭そ菌事件が蔓延している。パンドラの箱から出た新種の悪は果てしもなく弥漫しているらしい。

ギリシャ神話によれば、パンドラの箱には一つだけ逃げ出さずに残ったものがあつたという。それは「希望」であり、人類はこれを頼りに生きてきたといわれているのだが。